

# I 「広島県がん」の特徴がにじみ出てくる解析結果が出てきつつあります

昨年は「日本一」から「世界一」登録を目指して というタイトルでこの頁を書かせてもらいました。本年度集計した平成19年（2007）分において、広島県内で新たに発生したがん患者は18,786人であると同定しました。がんで亡くなっていることは分かっていますが、診断時状況を把握していない症例の頻度（DCO）は今年度5.4%（26頁）となり、昨年度報告よりさらに精度が高くなりました。すなわち、広島県内のがん患者を非常に高率に把握しているといえます。270万人都市レベルで、これだけ登録精度の高い都市は他に無いといえます。今後は、病歴管理の担当者に対する「地域がん登録実務者研修会」の充実、実務者間連携の強化、担当者としての資格認定などを通して、更なる精度向上に努力してゆく必要があると思います。

上記しました精度の高い登録資料から、広島県がんの特徴がいくつか見えてきました。全国の死亡率に対して広島県の肝がんは以前より高い値を示しておりましたが、なお高い率が続いております（10頁）。また、年齢別のがん罹患率を解析した結果では、肺がん、胃がん、大腸がんなどは50歳代から罹患率が増加してくる傾向にあるのに対して、女性特有のがん、すなわち、乳がん、子宮がん、卵巣がん等は25-30歳代より増加しており（18頁）、早期発見の重要性を示す、説得力ある資料がでてきております。臨床進行度の解析では、初診時にすでに「遠隔転移」にまで進行しているがんとして膵臓がん、肺がん、悪性リンパ腫など（22頁）があり、県民への広報活動の必要性や精度の高い検診体制の確立に役立つ所見が出ております。広島県内7つの二次保健医療圏別のがん罹患傾向は複数年の資料をまとめた形で解析可能となりますので、医療圏別のがん罹患の特徴が浮き彫りにされてくるのも、そう遠くないと思われます。

いよいよ来年度から生存確認調査が始まる予定です。上記罹患状況を土台にした5年生存率の把握は県民の待ち望んでいるところであり、更に努力してゆくつもりであります。広島県内医療機関皆様のさらなるご協力ならびに県民のご理解・ご協力をお願い致します。

平成23年3月

広島県がん対策推進協議会

がん登録推進部会長 鎌田 七男